

蠅取物語

FLY-CATCHER

本提案は地球から月や火星への行き来に関して、現行計画に寄り添いながら数十年後の宇宙旅行を可能にするための提案である。死んだ箱のような宇宙ステーションを回収し、再利用された箱に集って行き来する私たちの物語の初め方をここに記す。

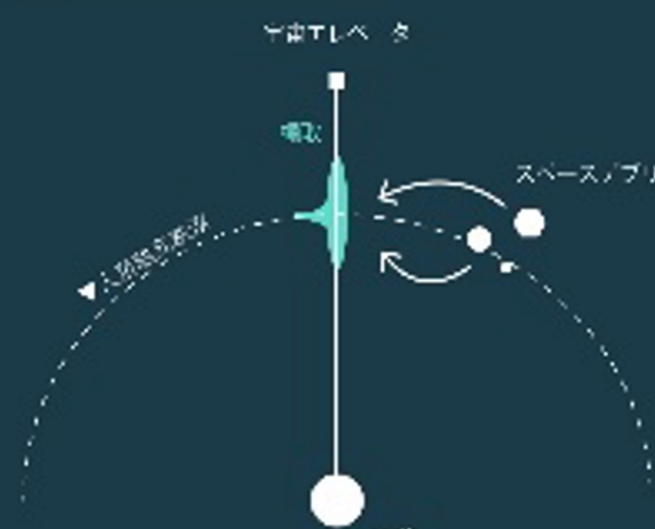
到着ロビーからの風景
蠅取に到着する宇宙船を見ながら夜が明ける

蠅取 [fly-catcher]

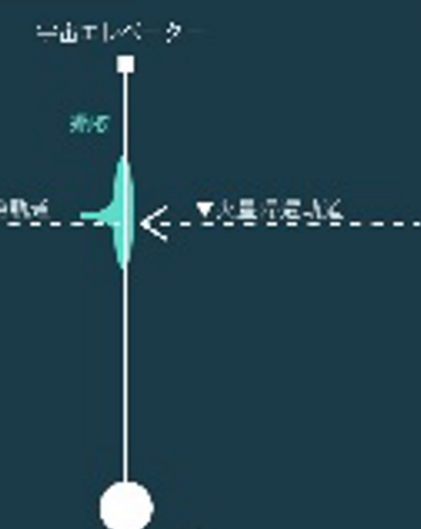
断面図 S=1:4000

蠅取とは本提案のコアになる施設であり、宇宙エレベーターの管路上に設置する計画としている。後述する目的に必要な主に3つの機能を備えている。

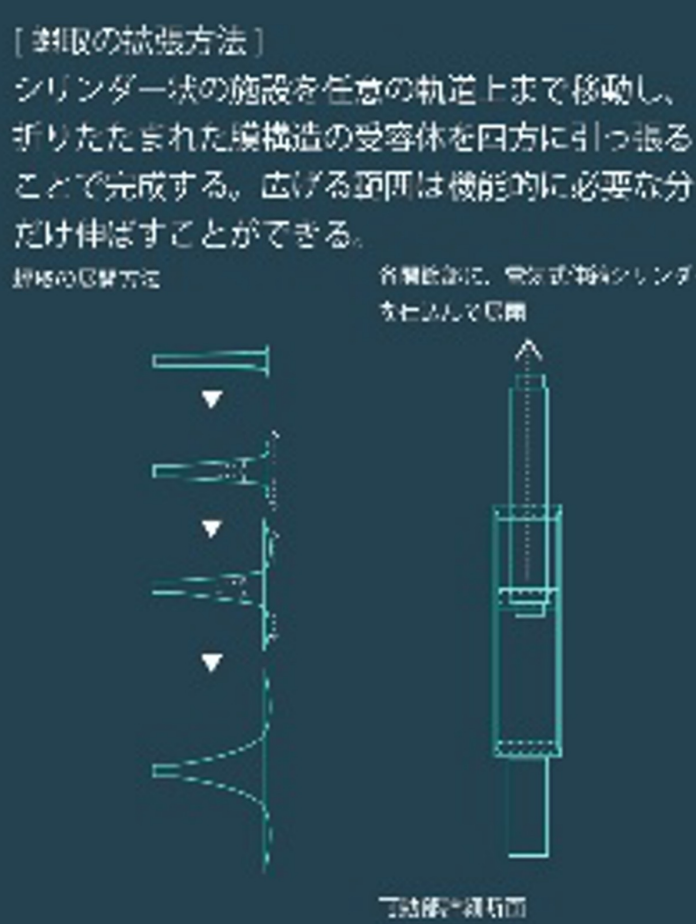
01. スペースデブリの除去



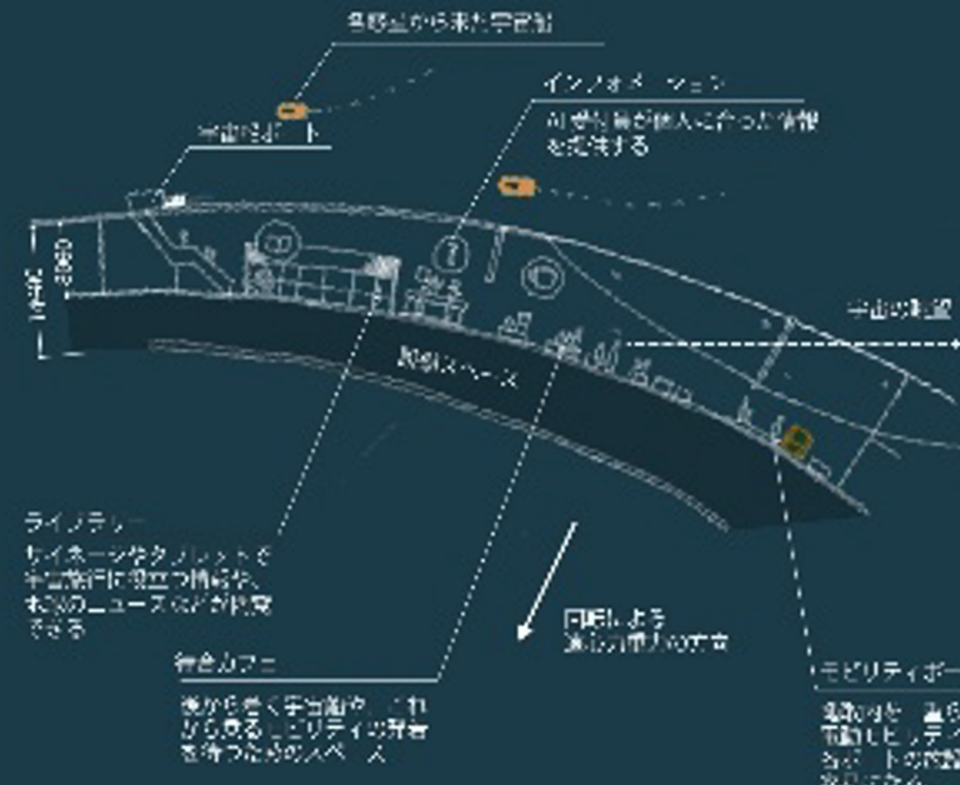
02. 離発着のベース



03. 惑星間情報の受信



到着ロビー (A部) 断面詳細図 S=1:1000



立体透視図 S=1:7000

隕石等不要物排出用管路

キャッチしたもののから、不要と判断されたものを排出するための管路。状況によって排出管路を並べるように四方八方に突き出している。

スペースデブリの振り分け方法

スペースデブリキャッチが回転し、遠心力によってスペースデブリを再利用ラボへ届ける。

84160.0mm

再利用ラボ

スペースデブリから使える素材等を抜き出して、再利用計画等を行う空間。

到着ロビー

月・火星と地球の行き来をする宇宙船の着地場。

自動選択式フィルター

スペースデブリと宇宙船を見分けてフィルターをかける層。

スペースデブリキャッチング

自動選択式フィルターによって振り分けられたスペースデブリをとらえる部分。

至 宇宙

宇宙エレベーター管路
蠅取につながった宇宙エレベーターの管路で、地球との行き来を行える。

1000000.0mm

至 宇宙

最端部の回廊

宇宙エレベーターからの乗り込み可能な360度つながる回廊。貨物搬送の役割と貨物受取等のインフラの役割と眺望スペースとしての機能を持つ。

至 地球

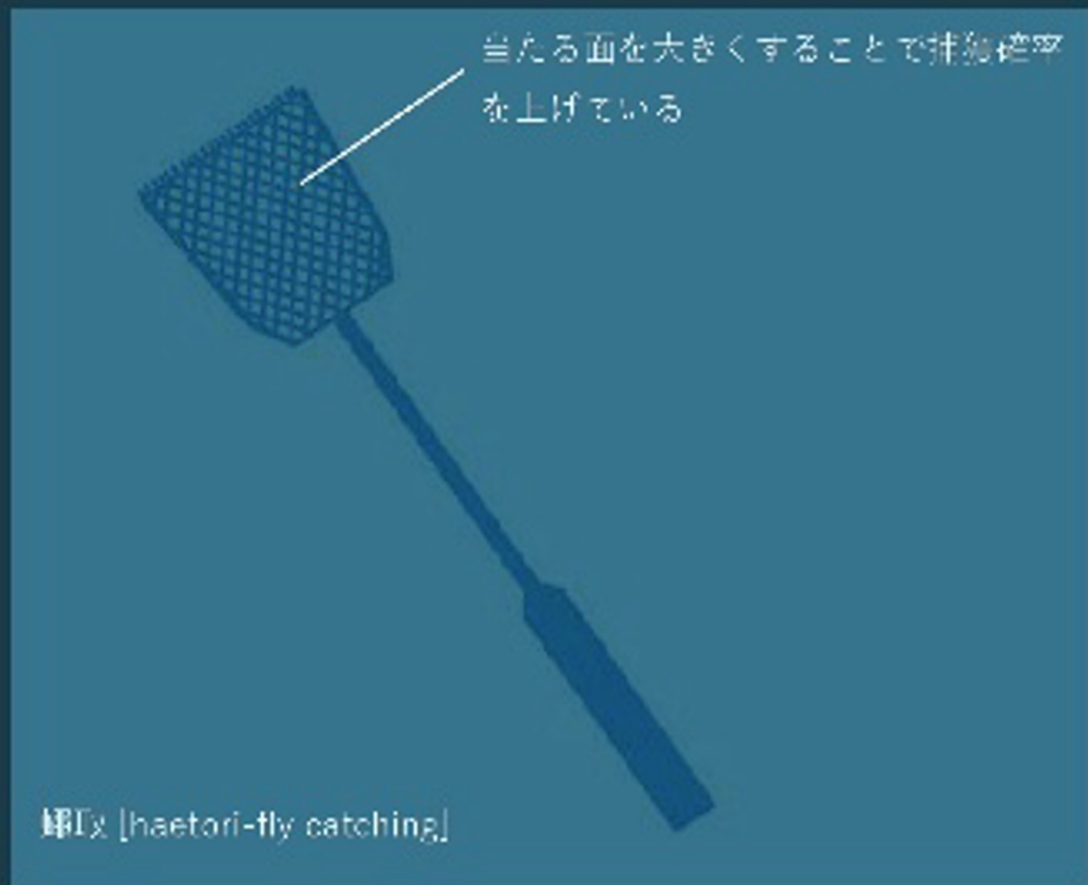
惑星間通信の受送信

膨大な情報量の通信受発を行う大きな面額の波状アンテナ。伸縮可能で、必要な面積に合わせて広げることができる。

惑星間の移動を支える「蠅取」

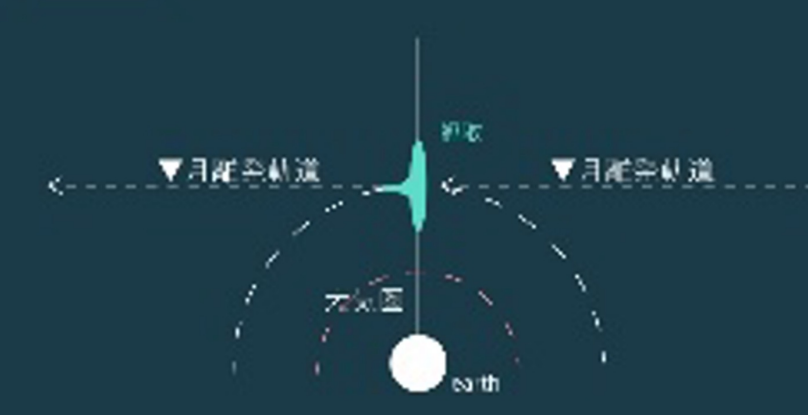
展開構造による大きな「蠅取」状のプラットフォームによって出発経路のスペースデブリ排除を行い、離発着空間として軌道計算による微細なずれをカバーする役目とする。大気圏外での離発着によって、リスクを抑えつつ地球の重量では行えない研究を進めることができる。初めは月着陸軌道上に設置され、後々月面到達が一般化し軌道計算のズレが収束したら「蠅取」は火星到達軌道上へ遷移する。火星離発着のずれが収束すると、今度は他太陽系惑星へのプラットフォームとしてさらに外側に遷移し、不要になった「蠅取」は数百年後に風景から消えることで任務を完遂する。

01. スペースデブリの除去 02. 離発着のベース



1. 蠅取プラットフォーム遷移状況の要綱

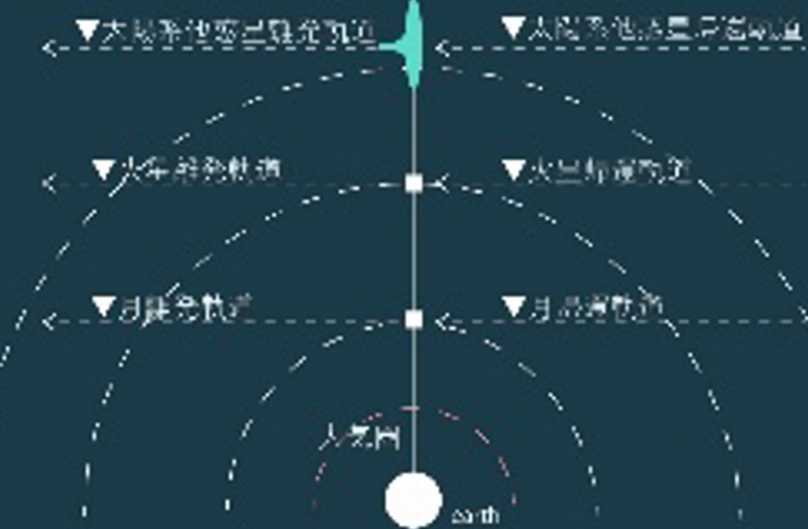
第一段階 月着陸軌道制



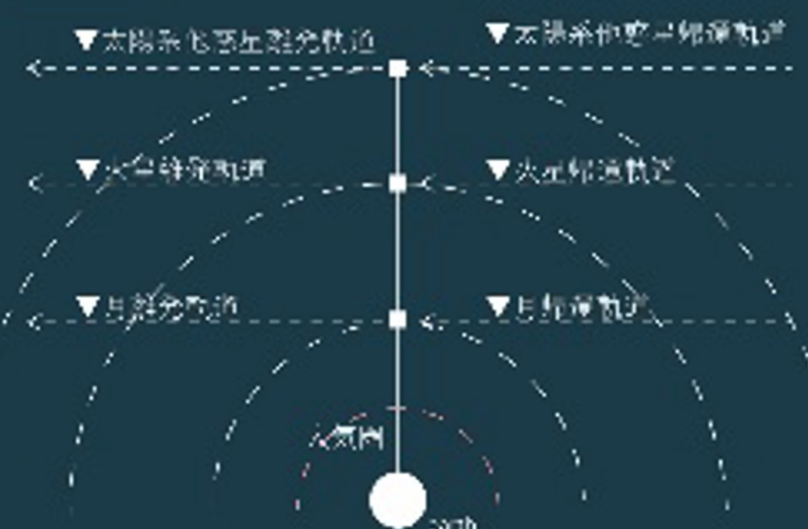
第二段階 月着陸軌道制 火星着陸軌道制



第三段階 火星着陸軌道制 他天体着陸軌道制



第四段階 他天体着陸軌道制



惑星間情報通信を強化し「惑星間移動人類のアバター化」にて飛行対象を変更

惑星間移動に際して所要時間に関係があり、火星であれば8ヵ月程度かかる。飛行対象が人間の場合、その間の食糧等生命維持の問題は大きく、コールドスリープなどの案も出ているがリスクが大きく倫理的にも懸念を抱えている。

本提案の「蠅取」は惑星間での超大型通信受容体となる。送受信の情報量が近年急速に増え、さらに7.8.9Gなど情報量を増やし視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚等の詳細な情報を送り、アバターロボットを通じて他天体での生活を体験する。情報量が多くなることで人間が認知できる解像度の限界を超えれば本物との見分けをするのは難しく、実質惑星旅行体験となる。

飛行対象をロボットにすれば移動の問題を解決できる。到着時に起動し、地球上各惑星と重力のポートにいる本人らが操作することでその土地をリモートで体験することができる。後々、技術進歩によって人間自体の飛行が可能になればアバターロボットは惑星上で減少していく。

03. 惑星間情報の受信

8G回線により五感の情報は地球のアバター元に送信され、体感としては火星移住も同様。

human avatar robot

火星までは8ヵ月ほどかかる

研究も進み、実際に生命で惑星に行けるようになると、地球惑星でのアバターロボットは減少していく。

2050年

2100年

旅行の宇宙空間には心身が健全でないとリスクが高いが、アバターであれば、老若男女問わず身体条件も問題なく惑星間での活動が可能。

On earth On mars

On earth On mars

On earth On mars

On earth On mars

On earth On mars

On earth On mars

On earth On mars

On earth On mars

On earth On mars

On earth On mars

On earth On mars

On earth On mars



地球からの風景

地球からの風景にも、変化がある。一定周期で月食が起こる。宇宙旅行の気候に応じて、蠅取は小さくなっていき最後はその姿を消す。